

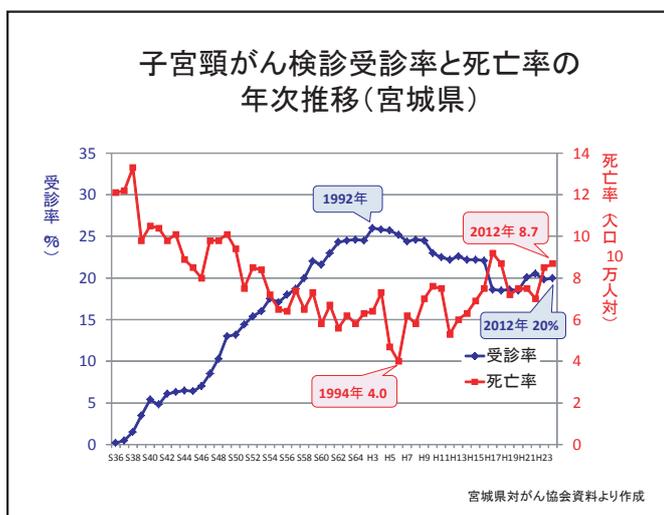
## 子宮頸がん予防ワクチン接種をお薦めします

仙台市立病院名誉院長 東岩井久 先生

### 急増する若い女性の子宮頸がん

子宮頸がんは、20～30代の若い女性に急増しており、30代に患者数のピークを迎えるようになりました。出産時期と重なることから、“マザーキラー”とも言われ、多くの若い女性が亡くなっています。日本では年間約8000人が新たに診断され、約2400人が死亡しています。

さて宮城県では、1994年度に子宮頸がん死亡率が人口10万対4.0（全国最低）まで低下しましたが、最近では再び上昇に転じ、2012年には8.7（2.2倍）になりました。一方で子宮頸がん受診率は増加し続けてきましたが、残念なことに1992年以降減少に転じ、2012年は20.0%にまで下がりました。子宮頸がんの死亡率と検診受診率は逆相関していることが明らかです（左図参照）。



### 子宮頸がんは誰にでも起こるHPV感染が原因、どのようなプロセスで発症するか

近年、子宮頸がんの自然史がかなり解明されてきており、世界の新しい常識では検診やHPV（ヒトパピローマウイルス）予防ワクチンによって予防できる癌になってきています。

1983年ドイツのツールハウゼン教授が子宮頸がんの組織の中からHPV16の遺伝子を検出したことに始まり、子宮頸がんの99%にHPVが検出され、このウイルスが子宮頸がんの発症に強い因果関係を持っていることが分かってきました。教授はこのことが評価され、2008年にノーベル賞を受賞しています。

HPVは人にとってありふれたウイルスであり、その感染も特別驚くようなものではありません。HPVは性行為を介する感染では最も多いもので普通の男女に広く感染を起こします。性的接触を持った大人であれば誰でもHPV感染のリスクを持っているのです。日本では性体験のある女性の60～80%は少なくとも一度はHPVに感染したことがあるとされています。HPV感染自体は病気でもなんでもなく治療の必要はありません。HPVの多くは免疫により2～3年の間に消失してしまうので、無症状のHPV感染に対する治療は不要と考えられています。

HPVはDNA配列によって100種類以上に分けられ、発見された順番に番号がつけられています。最近ではHPVの中に、単なる感染から進んで子宮頸部異形成や子宮頸がんを起こしやすい危険なタイプがあることが分かっています。これらをハイリスクHPVと呼んでおり、13～15種の型が知られています。そのうち約70%が16型と18型が占め、他に52型や58型も多いと言われます。ハイリスクHPVの感染がなければ子宮頸がんのリスクは無視できます。ハイリスクHPVの持続感染が起こると、数か月～10年ほどで正常細胞が癌化し始める前の異形成になり、異形成が軽度・中等度・高度へと進み、さらに子宮頸がんの初期の上皮内癌に進むというのが子宮頸がんの自然史と考えられています。

## 子宮頸がん予防ワクチンの開発へ

一次予防であるハイリスクHPVの感染を予防することで子宮頸がんの発生を防ぐことができるのではないかと、という考えから開発されたワクチンがHPV予防ワクチンです。このワクチンは感染したHPVを除くための治療ワクチンではなく、あくまでも新たなHPVの感染を予防するものです。現在、サーバリックスとガーダシルの2つが認可され使用されていますが、この2つのワクチンが予防の対象としているのは、ハイリスクHPVの中で最も頸がんに関連が強いとされている16型と18型です。世界各地で子宮頸がんから検出されるHPVで最も多く検出される型がこの2つで、子宮頸がんの70%から検出されています。年代による差があり、とくに20代では約9割がこの2つの型と言われています。

## 子宮頸がん予防ワクチンが定期接種へ

2013年(平成25年)4月1日、予防接種法が改正されHPVワクチンは任意接種から定期接種(国や自治体が接種を強くすすめており、接種による事故が起こった際には国が補償する)の一つとなり、日本でも子宮頸がんの一次予防の画期的布石となりました。しかし残念なことに、同年の6月14日、厚生労働省は、副反応検討会において接種後の持続する疼痛などについて十分な情報を提供できない状態にあるとして、調査検討の間は積極的な接種干渉を一時的に差し控えるべきと勧告しました。

その後の検討で、頑固な疼痛を訴える人の多くは複合性局所疼痛症候群(Complex Regional Pain Syndrome)によるもので、HPVワクチンとは直接関係がないことが判明し、HPVワクチン後のCRPSの発生は日本赤十字社の献血後に発生するCRPS発生(0.123 / 10万献血)の半分以下であることが報告されています。2015年12月に副反応検討会ではHPVワクチンの安全性が確認されていますが、厚労省では2013年の勧告を未だ取り下げていません。

WHO(世界保健機関)やFIGO(国際婦人科連合)ではHPVワクチンの安全性を再確認しHPVワクチンの安全性に大きな懸念がないとしています。

## 子宮頸がん検診を！ ワクチン接種があなたを守る

子宮頸がんの罹患を下げるためには検診の受診率の向上に努めるとともに、すでに有効性が明らかになっているHPVワクチン接種を推進していくことが不可欠なのです。HPVワクチンの有害事象や副反応について正しく理解し科学的判断をすることが、マスメディアが様々な憶測や不十分な情報に基づいて報告したHPVワクチンに関する不安を払拭することに繋がるものと考えます。

## 私のオフタイム

### ウィンタースポーツ再開しました

看護師主任 小林美和子

以前「オフタイム」を書いたのは、下の息子が2歳になった頃でした。なかなか大変な時期でしたが、二人の息子たちも成長し、6年生と5歳になりました。そんな息子達と過ごす中で、最近の冬には楽しみにしていることがあります。

私は雪深い新潟の生まれで、家から歩いて行けるところにスキー場がありました。物心ついたころからスキーをしていましたので、雪が降る冬がとても楽しみでした……。産後しばらくは子どもが小さかったこともあり、スキーに行くことができませんでしたが、子どもたちも成長しましたので、昨年十数年ぶりに家族みんなでスキーを購入しました！

しかし、、、喜んだのも束の間、私がある行事に参加していた時に転倒し、まさかの肋骨骨折となり行くことが出来なくなってしまいました……。

今年は気合を入れ直して毎日スクワットで体力をつけ、正月早々から念願だったスキーを楽しみ、やっぱり雪はいいなあ〜と改めて感じました。子どもたちはまだ上手に滑れず悪戦苦闘していますが、出来る限りたくさん行こうと思っています。



## 休診

4月11日(土)は、第67回日本産婦人科学会学術講演会参加(横浜)のため休診となります。

## 編集後記

3月3日は桃の節句、すでにひな人形を飾り季節を楽しんでいるご家庭も多いのではないでしょうか。ひな祭り(端午の節句)は、中国から伝わり江戸時代からは公的にお祝いの日と定められ、今日まで伝統的に続いているそうです。季節ごとに節句を祝う日本の慣習は素敵ですね😊

